

世界遺産 富士山 構成資産

白糸ノ滝



白糸の滝は、絶壁から富士山の湧水が流れ落ちる名瀑です。

「白糸の滝」と「音止の滝」周辺一帯は、「白糸ノ滝」として国指定の名勝及び天然記念物に指定されています。世界遺産富士山の構成資産の範囲とされているのは「白糸の滝」を中心とした区域です。





白糸の滝

音止の滝

曾我の隠れ岩

富士講 修行の地

古くから富士山は、人々の身近な祈りの象徴として、信仰されてきました。

江戸時代、富士登山によって家族の安全や幸せを祈る富士講という組織が生まれました。富士講の人たちは、往復で1週間から1か月をかけて江戸に近い吉田口（富士吉田市）や須走口（小山町）から富士山頂を目指しました。富士登山の後には、白糸の滝を訪れ、水行（山から湧き出る神聖な水で罪や汚れを洗い落とし、心身を清める修行）を行っていました。



▲山梨県立富士山世界遺産センターには、江戸の富士講信者の富士登山の様子が展示されています

白糸の滝での“水行”

江戸時代に富士講の開祖とされた長谷川角行は、人穴修行中に白糸の滝に通い、昼に3度、夜に3度、水行を行い、さらには一日に33度白糸の水を飲んで内心を清め、1,000日間の修行をしたといわれています。

角行が厳しい修行を積んだ白糸の滝は、富士講の人たちにとって、特別な場所となりました。白糸の滝で、富士講の人たちが水行中に、滝のしぶきの中で虹に包まれながら呪文を唱え、不思議な世界に導かれていたという記録も残っています。

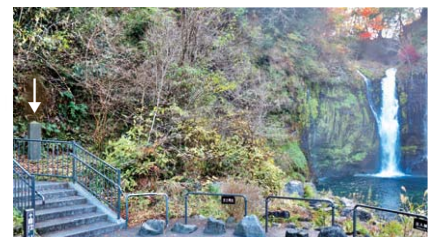


▲白糸の滝での富士講の人たちの水行の記録をもとに描いたイメージ

富士講発展の礎

江戸時代中期に食行身禄^{じきぎょうみろく}は、“貧乏身禄”と呼ばれるほど質素に暮らし、正直・慈悲・勤勉といった各自の日々の行いが、富士山の神に届き、心に平安が訪れるという、誰にもわかりやすい教えを説きました。身禄が、吉田口の富士山7合5勺目にある烏帽子岩での断食の末に亡くなると、彼の生き方と思想は多くの庶民の共感を得ていきました。江戸を中心に富士講が大きく発展し、多くの富士講の人たちが白糸の滝を訪れました。

身禄が亡くなって100年目(天保4(1833)年)には、彼を慕う富士講の人たちによって「食行身禄」と書かれた石碑が建てられました。



▲食行身禄の石碑は、今も白糸の滝の滝つぼの左手前に残されています。

静岡県富士山世界遺産センター



所 富士宮市宮町5-12
時 9:00～17:00(最終入館は閉館30分前)
 (7、8月は9:00～18:00)
料 大人300円、団体(20人以上)200円
 ※大学生以下・70歳以上・障がい者等無料 要証明
休 毎月第3火曜日、施設点検日
問 ☎0544-21-3776

壁面に映る富士登山道の映像を見ながら、らせんスロープを上ることで富士登山を疑似体験し、最上階では正面に本物の富士山を望めます。展示や映像を通して、富士山の自然や文化、歴史などを学ぶことができます。

山梨県立富士山世界遺産センター



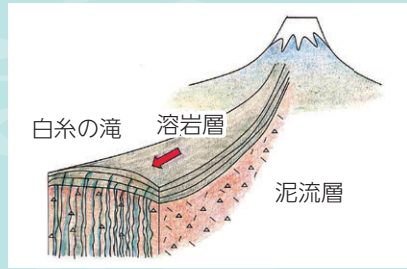
所 山梨県富士河口湖町船津6663-1
時 9:00～17:00
 (7～9月は8:30～18:00、12～2月は9:00～16:30)
料 北館・南館無料
休 北館：年中無休、南館：毎月第4火曜日
 (祝日の場合は開館・翌水曜日休館)
問 ☎0555-72-0259

和紙で作られた富士山の1,000分の1のジオラマでは、光と音との演出により、四季や一日の時間の流れを体感できます。映像による富士登山の疑似体験ができる「登拝体験」などの展示が人気です。

白糸の滝の水はどこから来るの？

富士山に降った雨や雪は、地中に染み込み長い年月をかけて不純物などがきれいに取り除かれ、麓まで辿り着きます。

富士山から白糸までの地質は、水を通しやすい溶岩層と水を通しにくい泥流層に分かれているため、雨や雪は溶岩層を通過して泥流層の上を通り、白糸の滝の崖面の溶岩の隙間から湧き出し、流れ落ちています。



高さ20m幅150mにわたり、毎秒1.5トンもの湧水が流れ落ちています

富士の巻狩ゆかりの地

源頼朝は、建久4年(1193)年5月に狩宿の井出家やその周辺に宿を置き、多くの家来を集めて朝霧高原一帯で約1か月間の巻狩(富士の巻狩)を行いました。

※ 追い立てた獲物を馬に乗って弓で射る軍事演習で、将軍としての実力を天下に示すために行われました。

“源頼朝”と白糸の滝

お鬢水

お鬢水は、白糸の滝の崖上に湧き出ている湧水の池で、透明度が高く水面は鏡のように景色を映します。

富士の巻狩の際、頼朝が水面に顔を映し鬢のほつれを直したことがその名の由来といわれています。



水は白糸の滝の一部として流れ落ちています

白糸の滝を詠んだ和歌

頼朝は、富士の巻狩で白糸の滝を訪れた際、そのあまりの美しさに和歌を詠んだといわれています。

この上に
いかなる姫やおわすらん
おだまき流す白糸の滝

【白糸村誌】より

「おだまき」とは、紡いだ麻糸を空の玉のように巻いたものです。

「糸玉から流れ落ちる糸のように滝の水が流れている。滝の上ではどのような姫君が糸を紡いでいるのだろうか。」と、滝の女性的な美しさを誉め称えています。

“曾我兄弟”と音止の滝

富士の巻狩の最中に父の仇である工藤祐経を討ったという曾我兄弟の仇討ちは、日本三大仇討ちの一つといわれ、音止の滝周辺には、この伝説にまつわる史跡があります。

音止の滝

音止の滝は、白糸の滝の東側の芝川を本流とする落差約25mの滝で、音無の滝とも呼ばれています。

女性的な繊細さを持つ白糸の滝とは対照的に、滝の流れ落ちる音は、男性的な豪快さがあります。

崖面には、白糸の滝と同じようにいく筋も湧水が流れ落ちています。



曾我の隠れ岩

曾我兄弟が隠れて仇討ちの相談をしたといわれる曾我の隠れ岩は、音止の滝の上に位置しています。



音止の滝の伝説

By:Y.N



お問い合わせ

富士宮市役所
富士山世界遺産課
☎22-1489 FAX 22-1206



富士山世界遺産課公式Twitter

富士宮を歩く すてじかん。
～富士の巻狩ゆかりの地を歩こう～
動画はこちら→



富士の巻狩ゆかりの地マップ

ゆっくり
歩いて
3時間



ここも
おすすめ



ここも
おすすめ



① 曾我の隠れ岩
曾我兄弟が身を潜め父を殺した工藤祐経の討ち入りを相談したといわれる



② 工藤祐経の墓
曾我兄弟に討たれた源頼朝の家来の墓



③ 曾我兄弟の霊地
曾我兄弟の兄(曾我十郎祐成)が、新田四郎忠常に討たれた場所といわれる



④ 曾我八幡宮
建久8年(1197)に源頼朝が曾我兄弟を祀らせたといわれる



⑤ 井出家高麗門・長屋
この辺りに富士の巻狩で源頼朝が置いた宿があったといわれる



⑥ 狩宿の下馬桜 (特別天然記念物)
源頼朝が馬から下りたところといわれる
見頃は4月中旬



⑦ お鬘水
富士の巻狩で源頼朝が髪のはつれを直したといわれる

凡例マーク

- コンビニエンスストア
- ガソリンスタンド
- 郵便局
- 病院